

東邦音楽大学総合芸術研究所 創立 40 周年記念演奏会

いま、奏でつなく輝きのステージ

Professor & Special Guest



秦 はるひ



太田 幸子



山崎 明美



片岡 啓子



佐藤 泰弘

出演

東邦音楽大学総合芸術研究所 ピアノ・声楽研究生・修了生 他

Piano

我妻 知美美 石川 のえみ 伊藤 曜子 栗原 京子 田中 彩生 敦賀谷 州泰 山根 理恵
服部 尚子 藤川 志保 村田 果穂 関口 純乃 前田 敬代 本間 めぐみ

Vocal

小倉 冴子 小野 清子 熊谷 優花 小林 修 鈴木 勇 林田 佐保子
高島 恵子 出井 則奈 下川 舞子 近野 桂介 田中 真由美

2025.11/30(日) 11:30開演 (11:00開場) 入場無料・全席自由

会場：東邦音楽大学 文京キャンパス 創立50周年記念館ホール

東京メトロ丸の内線「新大塚」駅より徒歩3分 東京都文京区大塚4-46-9

主催・問い合わせ：東邦音楽大学総合芸術研究所 03(3946)9666(代表) 平日9時～17時

ごあいさつ

昭和60年4月、東邦音楽大学総合芸術研究所は「東邦音楽研究所」として音楽の各分野で優れた実績を持つ第一級の音楽家が集まり、音楽の実践活動と学的研究を総合的に結び付けるユニークな研究を展開する場として創立されました。創立から今年は40周年を迎え、現在も第一線で活躍中の音楽家たちが指導にあたっています。

音楽は素晴らしい芸術です。しかし、どんなに芸術性に優れた音楽でも、それを演奏する人間の心がそれに匹敵するだけの教養と、情操豊かさを備えていなければ、単なる音の羅列にすぎなくなってしまいます。そこで、当研究所では心からの音楽を奏でる音楽家たちを1人でも多く育て世に送り出す機関として、今後も音楽界での重要な役割を担い音楽界の発展へ貢献してまいります。

創立40周年を祝して研究生、修了生、そして指導陣たちが奏でる心からの音楽をどうぞお楽しみください。

東邦音楽大学総合芸術研究所

Professor&Special Guest



所長 高橋 幸雄 Yukio Takahashi

東邦音楽大学 学長

学習院大学文学部ドイツ文学科卒業、同大学院人文科学研究科ドイツ文学専攻修了。ボッパルト・ミュンヘン大学にてドイツ近代詩、世紀末文学の研究に従事。主な論文は「世紀転換期を生きたリルケ」、「空虚なる自理性」、「マルテの手記論」等。日本独文学会会員、ドイツ語教育部会会員。



Piano 太田 幸子 Sachiko Ota

東邦音楽大学附属高校を経て、東邦音楽大学卒業。広瀬まり、塩島貞夫、(故)東久江に師事。読売新人演奏会を始め、各地において演奏を行う。若者の心の空洞化等、さまざまな問題を抱えている現代こそ、音楽教育の重要性が認識される時代であり、ピアノの演奏は、地道な訓練の積み重ねを欠く事はできないと唱え、現在も多くの後進の指導にあたる。平成27年9月より一般社団法人 東京国際芸術協会 会長。



Piano 秦 はるひ Haruhi Hata

東京藝術大学付属音楽高等学校を経て、同大学、同大学院を修了。在学中より邦人作品初演を盛んに行い、バッハから現代作品まで幅広いレパートリーを持っている。ドビュッシー国際コンクール第1位受賞後、ソロを中心に活動。2006年より9年間、パリにてピアノ研修を主宰。卒業と同時に同大学講師となり、36年間後進の指導にもあたり、門下からは国際コンクール入賞者も多数輩出。近年では、ヨーロッパの夏期講習、国際コンクールの審査にも招かれ、批評、演奏会プロデュースも手がける。2024年カール・チェルニーコンクール設立。2025年シリコンバレー国際音楽コンクール審査員。アトリエ・アッシュ主宰。



Vocal 佐藤 泰弘 Yasuhiro Sato

東京藝術大学大学院博士課程修了、博士号取得。Moscow国立音楽院研究生修了。Simionato国際コンクール第2位。Orvieto市国際コンクール第2位（1位なし、日本人初）入賞。オペラはBolognatteatro Duse『ナブッコ』ザッカリア、Milano teatro Carcano『セヴィリアの理髪師』バジリオ、二期会、藤原歌劇団、新国立劇場等でオックス、ファフナー等、百を超える役柄に出演。2025年11月「ドン・カルロ」大審問官、2026年1月「メリー・ウィドウ」ウィータに出演予定。東邦音楽大学、同大学院、同研究所特任教授、令和4年～6年度大学院研究科長を歴任。今年度から声楽主任。



Vocal 山崎 明美 Akemi Yamazaki

長崎県出身。お茶の水女子大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了。高橋大海、中山梯一の各氏に師事。その後、渡独。ドイツ シュトゥットガルト音楽大学リット科、オペラ科にて研鑽を積む。ブラームス国際コンクール声楽部門、セルトゲンボッシュ国際声楽コンクールに入賞し、ドイツを中心に放送録音や、音楽祭にてリサイタル、オラトリオのソリストとして活動する。レパートリーは多岐にわたり、リサイタルシリーズにおいては演奏される機会の少ない優れた歌曲紹介に務め、日本初演となった曲も多い。これまで、コルンゴルト、キルビネン、L.ブーランジェ、ラウタヴァーラ、エベン、ツィンマーマン等の作品を取り上げている。「ヘッセとリルケをうたう」「シェックとマルタンをうたう」「シュレーカーをうたう」「月に悪かれたピエロ」「架空庭園の書」は、文化庁芸術祭参加公演として催された。詩と音楽への深い共感から紡ぎ出される演奏は常に高い評価を受けている。日本ドイツリット協会顧問。日本声楽家協会理事。



Vocal 片岡 啓子 Keiko Kataoka

国立音楽大学卒業。同オペラ研究室修了。ミラノ・スカラ座歌手養成所修了。畑中 良輔・畑中更子・グアリーニ・ベルトラミの各氏に師事。1976年文化庁在外派遣としてミラノ留学。1979年ヴェルディ国際声楽コンクール第3位（1位なし）に入賞し、一躍注目される。1981年バルマ王立歌劇場ヴェルディ「アルツォーラ」でデビュー後、イタリアを中心に「アッティラ」「ナブッコ」「アイダ」「ドン・カルロ」等に出演。日本では二期会、藤原歌劇団公演にて「仮面舞踏会」「トスカ」「蝶々夫人」「トゥーランドット」他多数のオペラ公演に出演。帰国後は後進の指導にあたる傍ら国内外で幅広く活躍。「ヴォーチェ・ヴェルディアーナ」（ヴェルディの歌い声）と評される圧倒的なベルカントで人気実力とも日本を代表するソプラノ歌手の一人である。